

Aberystwyth 交流事業

宮津天橋高校宮津学舎 2年 根本 咲

参加したきっかけ

- ・幼い頃から世界地図や地球儀を見たり、海外について特集をしているテレビを見たりすることが好きで、いつか海外に行って知らない文化に触れてみたいという思いがあった。
- ・自分の英語力を試してみたかった。
- ・小学生の時にアベリスツイスと与謝野町が交流していることを知り、その時からアベリスツイスという街について興味があった。

私のホストファミリー

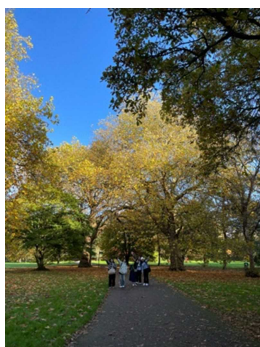
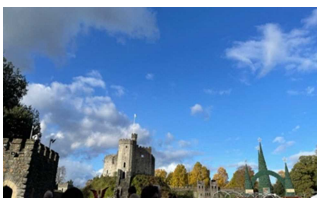


上の赤い髪の毛の女の子がウィロー、右の女の子がタビーです。私のホストチューデントの2人は同じ学校でとても仲がいいのでいつも3人で行動していました。学校で美術を専攻しているらしく、絵がとても上手でした。2人とも日本の食べ物やアニメに興味があり、たくさん文化交流することができました。



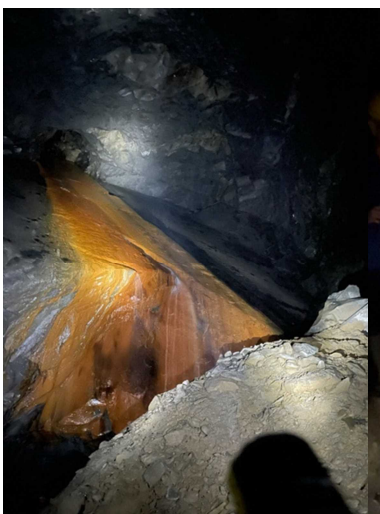
現地での体験

現地で多くの貴重な経験をさせていただいたので、特に印象に残っているものを紹介します。



アベリスツイスに行く前に、ウェールズの首都であるカーディフという街に行きました。カーディフ城の周りには豊かな自然が広がっており、紅葉がとても綺麗でした。日本ではみたことがない野生のリスがたくさんいて驚きました。イギリスは雨の日が多いことで有名ですが、到着した日は快晴で気持ち良かったです。

ハンドメイドの靴屋さんに行きました。さまざまな柄や色の靴があり、とても可愛かったです。中には日本の着物のような美しい和柄のものもありました。一つ一つ丁寧に心を込めて作っておられたので、私も欲しくなりました。



閉山した鉱山に行きました。ここで採れたものが、屋根の原料になるそうです。中はとても暗く、少し怖かったです。とても過酷で中には命を落とされる方もいたそうです。

ホストファミリーとの思い出



私が日本からのお土産として持って行った和柄の折り紙で手裏剣、風船、鶴、サンタクロースを作りました。ホストファミリーは折り紙をしたことがあるらしく、“折り紙”という日本文化を知っていてくれてとても嬉しくなりました。私は折り紙が苦手で、ホストファミリーに手伝ってもらったので、練習しておけばよかったと後悔しています。

ホストチューデントとその友達と一緒に移動式遊園地に行きました。年に一回しか来ないようで、すごく運が良かったです。一つのアトラクションあたりの時間が日本の二倍くらいあり、酔いそうになりましたが、すごく楽しかったです。



ホストファミリーと一緒に海岸まで行きました。なだらかな地形をしているので、登るのは楽でした。どこまでも水平線が広がっていて、その迫力にすごく感動しました。アベリスツイスは海沿いに位置しているので、すごく冷たくて強い風が吹いていました。この写真に写っている海はアイリッシュ海というそうです。



ホストファミリーと過ごす最後の日はちょうど私の誕生日でした。ホストマザーはとても料理が上手で、作ってくださったサンドイッチやスープ、スコーンはとても美味しかったです。ホストマザーの知り合いの現地に住んでいる日本人の方も来てくださり、たくさん貴重なお話ができました。外の焚き火を囲んでマシュマロを焼いて食べたり、食物連鎖ゲームを教えてもらったりして充実した時間が過ごせたと思います。Happy Birthday to Youの歌をウェールズ語で歌っていただきました。一生の思い出に残る誕生日になりました。

私のホストファミリーはとても温かい人たちで、出会えて良かったなと心の底から思っています。私をホストファミリーとして受け入れてくださり、本当に感謝しています。

その他



アベリスツイス大学に留学中のアジア人留学生とも仲良くなり、韓国のゲームを教えてもらったり、楽しく会話をしたりしました。

学んだこと

◎日本の「当たり前」は世界共通の「当たり前」ではないということ。

例えば日本では…

- ・赤信号の時は車が来ていなくても渡らない。
- ・席取りのために私物を置く。

↓

海外で通用するとは限らない！！

◎世界には人種差別があるということ。

ロンドンで、店員さんに冷たくあしらわれたり、一緒に行った友達が差別を感じるようなことを言われたりしていました。アジアンヘイトという言葉がニュースで耳にすることがありますが、私は当事者のはずなのにどこか他人事を感じていました。しかし、日本から出て色々な人種の人たちと出会ったことで、人種差別を肌で感じました。

◎どの国も戦争の惨事を忘れないようにしていること

・日本

8月15日が近づくとテレビで戦争の特集をしている。

・与謝野町とアベリスツイス

与謝野町とアベリスツイスが交流するきっかけとなったフランクエバンス氏のお墓参りへ行き、交流が始まるまでの経緯を後世に伝えようとしている。

・アベリスツイス

終戦記念のパレードや戦死者の名前を読み上げ、献花することで追悼している。



最後に

今までしたことのない挑戦で、かつ知らない世界に飛び込むためには勇気が必要です。だから応募するときすごく迷いました。ですが、帰国して数ヶ月経った今、このアベリスツイス高校生派遣事業に参加して本当によかったと思っています。与謝野町に住んでいるだけでは会うことのできない、さまざまな国出身の、多様なバックグラウンドを持つ人々と交流したことで、私の中の可能性や世界が広がったと思います。また、生まれた場所や文化に関係なく笑い合える、そんな平和な世界になってほしいと思いました。本当にたくさんのことを見て感じ、学びました。次は私が未来の世代に伝えていけるように頑張ります。このような貴重な経験をすることができたのは、多くの方々のご協力があったからだと思います。本当にありがとうございました。

アベリスツイス交流事業 報告書

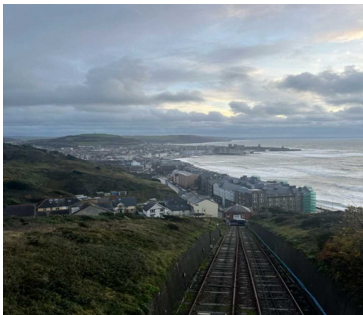
海洋高校2年 堀江健士朗

・研修に参加した理由と目的

以前姉がこの研修に参加させていただいて、前々から興味を持っていました。その際にフランク・エバンスさんの事について教えてもらったり、与謝野町の魅力を伝えることができるいい機会だと思い参加させていただきました。その他にも、自分に何かできることがあれば全力で取り組みたいという強い気持ちがありました。

初めは知っている人が少なかったりして、不安でしたが与謝野町の代表という自覚を持って、お互いにとって良いものになるように一生懸命頑張りました。

・アベリスツイスについて



- ・ ウェールズの中にある街
- ・ 人口(Population) 約1万人
- ・ 言語 (language) 英語 ウェールズ語
- ・ 日本との時差 9時間
- ・ ロンドンから電車で約6時間

街並みについて



田舎と聞いていたが、とても栄えていました。家の色がカラフルだったり、家自体がオシャレで新鮮に感じてしまいました。少し街から外れると至る所に羊がいたり、山が無く全て丘なので街全体を見晴らすことができました。道路に路上駐車している人がたくさんいて、少し衝撃を受けました。人々がとても親切で緑がたくさんあり、のどかな街と感ずることができました。

食事について



料理が美味しくないという人が多いですが、自分にはとても合っていて美味しかったです。ご飯を食べる際、箸は勿論ないのでナイフとフォークを使いました。飲み物もお茶や水ではなくて、ジュースだったのでびっくりしました。カロリーが高くて少し食べたただけですぐにお腹いっぱいになることができました。

Host student について

Osian King (オーシャン キング)

会った時の第一印象は、背が高く身長を聞いてみると2mと言っぴびっくりしました。とても面白くて親切でした。サッカーが好きなので、一緒に観戦に行ったりもしました。農家になりたいらしくて、トラックに乗せてもらい、実際に運転させてもらったり、広い丘にも連れて行ってもらいました。キングも旅行が好きだったのでその話で盛り上がり、一緒にゲームをしたり、ウェールズ語も教えてくれました。同い年のという事もあり、話があっぴずっと笑い合っていました。



Joshua Johnson (ジョシュ ジョンソン)

ジョンソンも背が高く、身長を聞いたら1m90cmと言っぴ羨ましいと感じました。とても親切で常に心配事がないか聞いてくれました。ギターが得意で実際に自分も弾かせてもらいました。音楽が好きなのでOne Directionの話で盛り上がりました。様々な絶景スポットに連れて行ってもらったり、ゲームをしたり、遊園地に行ったりしてとても楽しかったです。将来は生物学者になりたいらしく、少し教えてもらいました。ジョンソンも同い年で様々な話で盛り上がりました。

Host student との思い出



日本ではできない貴重な体験をたくさんさせてもらいました。

フランク・エバンスさん



今回の交流事業の1番の目的であるフランク・エバンスさんのお墓を訪ねました。第二次世界大戦で日本軍の捕虜となり、強制労働されました。そこで亡くなった友や平和を願うために、慰霊碑を建て与謝野町とアベリスツイスの友好関係が始まりました。二度とこのようなことを起こさないためにも、次の世代にしっかりと伝えて平和な世の中にしてほしいと思います。この交流を通して、多くの人に伝えなければいけないことは、平和は当たり前じゃないということだと思います。いつも何気なく生活している事が当たり前じゃないこと、その当たり前に自分たちがいるという事がどれだけ恵まれたことかもう一度考えるべきだと思います。

最後に

この研修を通して人種、言語、住んでいる国、宗教、文化が違う人とたくさん関わる事ができました。その中で自分たちがすべき事があります。それは、この交流の発端を多くの人に伝えるべきだと思います。なぜこの事業が生まれたのか、参加してどうだったのか、何を学んだのかをもっと多くの人に伝えて与謝野とアベリスツイスの関係をもっと多くの人に知ってもらいたいと思います。

この事業に参加して改めて、平和という言葉について深く考える機会になりました。フランク・エバンスさんを通して、今の生活が当たり前でないこと、この当たり前にいる自分たちは恵まれていると感じました。その平和を保つために自分たちには、何ができるのかも考える事ができました。Host student に与謝野町のパンフレットを渡し、自分の街を説明していて、さらに与謝野町に興味を持ったり、行ってみたい！と言ってくれました。このように、説明することで、さらに与謝野町とアベリスツイスの関係が深めることができると実感する事ができました。

自分は、この経験を通してコミュニケーションの大切さや海外についてさらに興味を持つ事もできました。大学では、国際分野を専攻し、国際的な仕事に就きたいです。その際に留学したりして、海外の人と関わっていく上で平和という言葉を大切にすると共に、与謝野町の魅力も同時に伝えて行きたいと思いました。

最後になりましたが、今回一緒に行った7人の高校生の団員、廣谷さん、井戸本さん本当にありがとうございました。この事業で関わることでできた人全てに感謝して、これからも繋がりを大切にしていきたいです。事前学習から研修報告会までの約4ヶ月間ありがとうございました。これからも与謝野町とアベリスツイスの交流が平和に続けられるように願っています！

